

学校教育目標 人間尊重の精神を基盤にし、心豊かでたくましく生きる子どもを育てる。
--

めざす学校像ーあいさついっぱい 笑顔いっぱい みんなの船越小学校ー 児童が生き生きと活動する活気に満ちた学校 保護者・地域から信頼される魅力ある学校 きれいに掃除され、花いっぱいの教育環境が整った美しい学校	めざす子ども像 かしこく・やさしく・つよく すすんで学習に取り組む子ども 元気に明るくあいさつする子ども 掃除をまじめにする子ども	Smile・・・心身共に元気で笑顔がいっぱい Study・・・研究, 学び合い Service・・・公務員としての自覚 Sincerely・・・誠実, 思いやり, 協働 Speed・・・危機意識を持った迅速な対応
---	--	--

領域	中期経営目標	短期経営目標	具体的方策	中間評価		担当
				前期の取り組みと成果	課題	
確かな学力	すべての学習や生活の基盤となる「言語活用能力」を育成する。	読みの力の育成を図る。	説明的文章における読みの意欲を高める授業づくりを計画的にすすめる。	<ul style="list-style-type: none"> ・学年に応じて教材, 導入, 発問等の工夫を行った。 ・興味をもって楽しく学習に取り組ませることができた。 ・目的を持って読んだり, 内容の大体を読み取ったりすることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・内容の大体を捉えることができるが言葉や文に着目して読み取することは, まだ十分ではない。 ・言葉や文に着目したくなるような授業作りを引き続き研究する。 	研究部
			帯タイムを活用し音読を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> ・音読集や全校ことばタイムの内容を活用し, 学年に応じた工夫を行った。 ・音読に慣れ, 意欲的に取り組む児童が増えたが正確さや内容にあった表現には課題が残る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文章を正確に読んだり, 工夫して読んだりする力がつくように引き続き学年に応じた指導を行う。 	
			帯タイムを活用し漢字の習熟を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字(前学年)の習熟の定着を図るよう継続的に指導した。 ・意識して前学年の漢字指導に取り組んだので, 覚えることができています。 ・新出漢字は量が多く, 定着しにくい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字の量が多いため習熟の定着を図ることが難しい。 ・定着を図るため, ノートや小テスト等で既習漢字の活用を図り, 習熟させていく。 	
豊かな人間性の育成	心豊かでたくましく生きる子どもを育てるために, 人間関係力を培う教育活動を推進する。	あいさつ100%の推進を図る。	年間を通して工夫した取り組みを考え, 実践する。	<ul style="list-style-type: none"> ・運営委員が中心になり, あいさつ運動(あいさつ標語の募集・あいさつチェック表・あいさつの呼びかけ)を行った。 ・生徒指導部担当教員があいさつ運動をした。元気な声が返ってきた, 児童と気持ちのよいあいさつを交わすことができた。 ・生活ふりかえりカードで取り組み, あいさつをしようとする意識を高めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつをしない子は固定化し, あいさつをしても, 返事が返らない。 ・正門方面から来る児童の登校時刻が早く, あいさつ運動が間に合わなかった。 	生徒指導部
		読書活動の推進を図る。	読書タイムの実施, 読書ボランティアの読み聞かせ等, 読書活動を充実させる。	<ul style="list-style-type: none"> ・読書タイムを毎日実施した。 ・読み聞かせは, 各学年1回行った。今後も実施予定。 ・本棚を整備し, 読書環境を整えた。 ・学級文庫を充実させた。 ・夏季休業中の登校日に本の貸し出しをした。 以上の取り組みにより, 児童は落ち着いて, じっくりと読書に取り組んでいた。	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が読書活動を継続できるように今後も計画通り活動を実施する。 ・学級文庫の本が限られているので, 学年内で学級文庫のローテーションをしていきたい。 	教務部

領域	中期経営目標	短期経営目標	具体的方策	中間評価		担当
				前期の取り組みと成果	課題	
豊かな人間性の育成		すすんで掃除に取り組む子どもを育てる。	勤労・奉仕の態度を養うために、全教職員が掃除に参加して、指導を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・全校職員で指導にあたり、児童への指導を通してふれあいができ、担任だけでは届かないところも指導してもらえた。 ・掃除の仕方や、用具の使い方など、細かな部分の指導もでき、掃除に熱心に取り組むようになってきた。 ・生活ふりかえりカードで掃除に対する意欲を高めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・掃除時間が短くなったので、取りかかりの時間をきちんと守らせないと、時間内に掃除が終わらなくなった。 ・掃除開始を校内放送のアナウンスにたよるため、取りかかりが遅くなることもあった。 ・校務に追われて、掃除時間に指導できないこともあった。 	生徒指導部
		異学年交流・幼保小中連携の推進を図る。	児童会活動や授業を中心に、異学年交流を進める。また、幼保小中連携のため、打ち合わせや研修を充実させる。	<ul style="list-style-type: none"> ・夏季休業中に中学校のクラブ見学へ行ったが、体験ができず、満足いくものにはならなかった。 ・中学校区研修会を実施し、秋の研究会に向けての小中の連携の基盤ができた。 ・幼保小の連携の計画については後期に計画している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校へのクラブ見学を初め、事前の打ち合わせが必要であるが、事前の打ち合わせの時間がなかなかとれない。 ・できるだけ異学年の交流ができるよう取り組みを考えていく。 	教務部
「まちぐるみ」による教育の推進	地域に開かれた学校をめざし、心の通い合う価値ある教育活動を推進する。	地域の教育力を積極的に活用し、地域に開く双方向の教育活動の推進を図る。	地域の教育力を活用した授業等を全学年で計画的にすすめ、双方向の交流に取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> ・安全マップ作りでは、保護者の協力を得て活動し、危険な箇所の確認ができた。 ・クラブ（囲碁将棋・グランドゴルフ）の協力者として地域の人に入ってもらっていて交流ができています。 ・6年生が地域の方々をゲストティーチャーによんで、戦争体験についての話を聞き、後日お礼の手紙を児童が書きわたした。戦争中の船越の様子を身近な方から聞くことができ、大変有意義な会になった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も地域の方との打ち合わせを行いながら計画通り継続して実施していく。 ・来てもらって活動するだけでなく、児童の方から働きかける双方向の交流になるように、学年ごとに取り組みをすすめる。 	教務部
体力の向上	心豊かでたくましく生きる子どもの育成のために、基盤となる体力の向上を推進する。	自分の健康に関心をもち、運動に意欲的に取り組む子どもを育て、体力の向上を図る。	休憩時間に外遊びを奨励する。	<ul style="list-style-type: none"> ・体育委員会を中心に、体育倉庫の用具の貸し出しを行い、効果的に活用されている。 ・体育委員会によるドッジボール大会を行い、多数の児童が参加し、外遊びのきっかけとなった。 ・各クラスで、定期的に全員遊びの日を設けて外遊びを行い、外遊びに意識が向いてきている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・外で遊びたがらない児童が依然としているので、今後も全員遊びやなわとび集会など、外で遊びたくなるような行事、企画を計画していく。 	保体部
			個々の体力づくりカードを持たせ、自分の目当てに向けて、運動に取り組ませる。	<ul style="list-style-type: none"> ・1～3年はスポーツマスターカード、4～6年は体力アップハンドブックを活用し、それぞれの目当てに向けて、体力づくりに取り組んでいる。 ・全学年、新体力テストを実施し、子どもたち自身に、自分の体力の様子や課題を把握させた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新体力テストにより明らかになった課題を、体育の授業等で伸ばす取り組みを行う。（重点項目として、握力・柔軟性に重点を置く。） ・体力の実態を保護者の方にも伝えることによって、各家庭での協力をお願いする。 	

12月末評価		評価指標・評価基準				次年度以降の課題と対応策
後期の取り組みと成果	課題	努力指標	評価	成果指標	評価	
<ul style="list-style-type: none"> 意欲を喚起する指導の工夫を行った。…読ませ方の工夫、学習形態の工夫、他社教材の活用、具体物の提示、目的や見通しをもって読むための活動の設定（クイズ大会、新聞づくり等） 言葉や文に着目して読み取ることができるように、発問やワークシート、教材の工夫を行った。 説明的文章の授業への意欲がみられた児童が教師の見取りや児童アンケートで8～9割強。 	<ul style="list-style-type: none"> 単元ごとの教材研究になりがちだった。年間を見通す視点での教材研究が必要。 つきたい読みの力を児童の具体的な姿で表す。 意欲的に読む姿勢を促すことは、ほぼできたが、内容の読み取りについては課題がある。（指示語の内容を捉える、まとまりや全体を関連付けて読む、思考しながら読む） 支援を要する児童への指導の手立てをきめ細やかに行う。 	3教材の特色を生かした指導工夫を計画的に行った。	3	4教師の見取りで説明的文章を意欲的に読んでいる児童が90%以上。	3	<ul style="list-style-type: none"> 意欲的に読むことを促すことはほぼでき、導入時等における指導の在り方も見えてきたが各学年に位置付けられた読みの力をつけることには課題が残る。年間を見通して教材研究を行い読みの力を確実につけるよう、引き続き授業改善に取り組む。
		3教材の特色を生かした指導工夫を行った。		3教師の見取りで説明的文章を意欲的に読んでいる児童が80%以上。		
		2教材の特色を生かした指導工夫があまりできなかった。		2教師の見取りで説明的文章を意欲的に読んでいる児童が60%以上。		
		13教材の特色を生かした指導工夫がほとんどできなかった。		1教師の見取りで説明的文章を意欲的に読んでいる児童が60%未満。		
<ul style="list-style-type: none"> 音読集やことばタイムの教材を活用した。 意欲的に練習ができる手立てを講じた。（いろいろな形態、暗唱、音読カード、いろいろな教材） ほとんどの児童が繰り返し読むことでつまらず、自然なテンポで読めるようになった。 支援を要する児童が、初読でもつまらずに読めるようになってきた。 	<ul style="list-style-type: none"> 低学年では、帯タイムに音読指導と漢字指導に同等の時間をかけることができたが、中・高学年は、漢字指導に時間をかけることが多かった。漢字学習と音読とを関連付けた指導をすることで声に出して読む時間を確保する。 一斉音読になりがちだった。個人読みを大切に、個々への指導と評価を行いたい。 	4帯タイムを活用し、音読を十分に推進することができた。	2	4教師の見取りで音読の力に十分な向上がみられた。	3	<ul style="list-style-type: none"> 確実に実施することが難しかった。ひろしま型カリキュラムの帯タイム計画に沿って確実に実施していくようにする。また、一斉音読に片寄らず個人読みを大切に、個々への指導と評価を行っていく。
		3帯タイムを活用し、音読を推進することができた。		3教師の見取りで音読の力に向上がみられた。		
		2帯タイムにおける音読をあまり推進することができなかった。		2教師の見取りで音読の力に向上があまりみられなかった。		
		1帯タイムにおける音読を推進することができなかった。		1教師の見取りで音読の力に向上がみられなかった。		
<ul style="list-style-type: none"> プリントや小テストの繰り返しで定着を図った。 5・6年は、教室に前学年のプリントを常備し、自由にチャレンジできるような学習環境を整えた。 1年生は、平仮名プリントや視写プリントを活用した。ほぼ全員ひらがなを習得している。 前学年の漢字の定着率90%以上の児童が9割以上。 	<ul style="list-style-type: none"> テストでは、前学年の習得率が高いので日常でも既習漢字を使う意識を高めていく。 新出漢字の定着が難しいので2年間かけて確実に書けるようにする。 書き順が定着していない児童もいる。書写指導との関連も図り、法則性等を指導していく。 1年生では平仮名と片仮名の混同、2年生では、片仮名が正しく書けないなどの実態がみられるので、片仮名も繰り返し練習するよう取り組む。 拗音や促音のまちがいがよくみられるので表記に関する練習も繰り返し行う。 	4帯タイムを活用し、漢字の習熟を十分図ることができた。	3	4前学年の漢字を確実に書くことができる。（90%以上）	4	<ul style="list-style-type: none"> 前学年の漢字テストでは、ほぼ習熟させることができた。今後は日常でも既習漢字を使う意識を高めていく。 書き順、拗音や促音、片仮名、ローマ字等の指導も繰り返し行い定着を図るように努める。
		3帯タイムを活用し、漢字の習熟を図ることができた。		3前学年の漢字をほとんど書くことができる。（80%以上）		
		2帯タイムを活用し、漢字の習熟をあまり図ることができなかった。		2前学年の漢字をあまり書くことができない。（60%以上）		
		1帯タイムを活用し、漢字の習熟を図ることができなかった。		1前学年の漢字をあまり書くことができない。（60%未満）		
<ul style="list-style-type: none"> 生活ふりかえりカードを使用して児童のあいさつの実態を調査した。学級指導により、あいさつをすることに意欲付けを行った。ふりかえりカードを使っているときは、よくあいさつをした。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童はあいさつをよくしていると自己評価している（肯定的評価95%）が、教師の見取り（肯定的評価55%）との差がある。 地域の方から「帰りのあいさつがない」との声をいただいた。 それぞれの場面で、どのようなあいさつをしたらいいかを指導していく。 	4学期に2回以上あいさつ運動への取り組みを行った。	4	4毎朝あいさつできる児童が90%以上である。	3	<ul style="list-style-type: none"> あいさつはするが、自分から進んであいさつをする児童が少ない。生活ふりかえりカードや児童会での取り組みだけではなく、学級を活用して常時活動に取り組んでいく。
		3年間に3回あいさつ運動への取り組みを行った		3毎朝あいさつできる児童が80%以上である。		
		2年間に1回あいさつ運動への取り組みを行った。		2毎朝あいさつできる児童が60%以上である。		
		1あいさつ運動の取り組みを行わなかった。		1毎朝あいさつできる児童が60%未満である。		
<ul style="list-style-type: none"> 9月に各学級に新しい本が入った。学級ごとの本のローテーションを行った。まだしていない学年には声をかける。 読書タイムはおおむね計画通り実施した。静かに座って本を読んでいる。毎日行うことで読書の習慣化ができ、わずかな時間を見つけて読書している児童もみられる。 読み聞かせも計画通りに実施した。 高学年では、学習内容に合わせて主体的に本の選択を行う児童も増えたきた。 児童アンケートでは高学年では78%低学年では90%本が好きになったと答えている。 保護者アンケートでは子どもが読書を好きになっていると答えている保護者が77%いる。 	<ul style="list-style-type: none"> 教職員アンケートによると読書タイムの確実な実施が81%、確実に実施していないが18%あるので、確実に実施できるようにしていく。 読書タイムを確実に実施し、本の紹介をするなど意欲付けを行っていく。 	4全学級で計画通り読書タイムを実施し、学期に担任や読書ボランティアによる読み聞かせを3回以上行った。	3	4児童アンケート及び教師の見取りで読書することが好きな児童が90%以上であった。	3	<ul style="list-style-type: none"> 今年度は年度途中で読書タイムの持ち方について意識統一をしたので、来年度は年度初めに、提案をする。 来年度は、読書タイムを確実に実施する。
		3全学級でほぼ計画通り読書タイムを実施し、学期に担任や読書ボランティアによる読み聞かせを2回行った。		3児童アンケート及び教師の見取りで読書することが好きな児童が80%以上であった。		
		2全学級でほぼ計画通り読書タイムを実施し、学期に担任や読書ボランティアによる読み聞かせを1回行った。		2児童アンケート及び教師の見取りで読書することが好きな児童が60%以上であった。		
		1読書タイムを計画通りに実施しなかった。		1児童アンケート及び教師の見取りで読書することが好きな児童が60%未満であった。		

12月末評価		評価指標・評価基準			次年度以降の課題と対応策	
後期の取り組みと成果	課題	努力指標	評価	成果指標		
<ul style="list-style-type: none"> 児童会運営委員がそうじチェック表を作るなど、児童の掃除に対する関心が高まった。 教師アンケートでは、全職員で掃除指導をしたが93%であった。また、教師の80%が児童の掃除の仕方について肯定的な評価であった。 	<ul style="list-style-type: none"> 掃除時間が5分間短くなったため、掃除用具の片付けや手入れが完全にできていない。 掃除時間にむだな私語をしている児童も多いので、引き続き指導をしていく。 	週3回程度掃除の指導を行った。	4	生活ふりかえりカードで掃除の取りかかりの時間を守った児童が90%以上である。	3	<ul style="list-style-type: none"> 掃除時間の取りかかりは、放送に頼っている。時計を見て動けるようにする。 来年度も引き続き全教職員と一緒に掃除を指導し、用具の扱いを教えるとともに、評価を行う。
		週2回程度掃除の指導を行った。		生活ふりかえりカードで掃除の取りかかりの時間を守った児童が80%以上である。		
		週1回程度掃除の指導を行った。		生活ふりかえりカードで掃除の取りかかりの時間を守った児童が60%以上である。		
		児童の掃除の指導をすることができなかった。		生活ふりかえりカードで掃除の取りかかりの時間を守った児童が60%未満である。		
<ul style="list-style-type: none"> 6年生が5年生に修学旅行の発表を行った。資料を集め、それを生かしながら効果的に多様な発表の形式を考え取り組んだ。 5年生が1年生に学校のニュースを紹介した。5年生は1年生にわかりやすいよう発表の仕方を工夫し、相手意識をもって伝える力がついた。1年生も5年生の発表の仕方を学んで、自分たちの学習にいかすことができた。 幼保小連携では、2年生が、幼稚園、保育園の園児を迎えて、一緒に遊ぶなどの活動をした。 幼稚園、保育園の年長の園児が1年生の授業を参観し、給食を試食する計画がある。 船小プレイランドでは、縦割り班で行動するなかでリーダーの自覚が芽生えた。 児童アンケートでは、縦割り班活動が楽しいと答えているのは、高学年が78%、低学年が89%であった。 教職員アンケートでは、異学年交流が適切に行われたが83%であった。 中学校区教科等研究会で、中学校の先生が小学校で授業参観をし、その後、協議会を行い連携を図った。 	<ul style="list-style-type: none"> 交流する場面での打ち合わせの時間が取りにくい。 例年実施しているから活動しているという場合がある。ねらいや成果がわかりにくいままの実施になっている。 年度初めに、異学年交流の場を全学年年度に一回以上計画するようにする。 	全学年で学期に1回以上異学年交流を実施し、幼保小中連携のための打ち合わせや研修を行った。	3	児童アンケート及び教師の見取りで有意義な交流ができたとの回答が90%以上であった。	3	<ul style="list-style-type: none"> 小中連携は年間に位置づけられているので、おおむね実施できた。幼保小の連携も夏季休業中を利用するなどして計画をしたい。 全学年で異学年交流ができるように計画を立てる。
		全学年で年間に1回以上異学年交流を実施し、幼保小中連携のための打ち合わせや研修を行った。		児童アンケート及び教師の見取りで有意義な交流ができたとの回答が80%以上であった。		
		異学年交流を実施できなかった学年があり、幼保小中連携のための打ち合わせや研修を行わなかった。		児童アンケート及び教師の見取りで有意義な交流ができたとの回答が60%以上であった。		
		異学年交流が実施できず、幼保小中連携のための打ち合わせや研修も行えなかった。		児童アンケート及び教師の見取りで有意義な交流ができたとの回答が60%未満であった。		
<ul style="list-style-type: none"> 6年・・・生け花体験 5年・・・一銭洋食、聴覚障害者理解学習 4年・・・国土交通省でのバリヤフリー体験、パンジーの栽培 3年・・・視覚障害者理解学習（予定） 商店・工場の見学 2年・・・安芸区図書館の見学 1年・・・わらべうた遊び 全学年・・・船小プレイランド（昔の遊び） 全学年・・・安芸クラシック出前コンサート <p>地域の方とふれあうことで地域の存在を意識し、地域の一員であるという意識が芽生えた。伝統文化に触れたり、さまざまな体験をすることに大きな意義がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域の教育力の活用が定着してきている。 地域の人と一緒に活動するのは楽しいですかという問いに対して、高学年は88%が肯定的に回答している（低学年未実施）。 <p>保護者アンケートで地域との交流をよりよくすすめているが93%、地域との双方向の交流は適切にすすめられているが教職員アンケートで64%であった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 活動が定着している反面、学習の内容や方法が固定化されている部分もある。総合的な学習の時間や生活科等のねらいに則して活動を仕組んでいく必要がある。 今後、総合的な学習の時間が減っていくので、活動を精選していかなければいけない。 	全学年で年3回以上授業を計画通り実施した。	3	児童アンケート及び教師の見取りで、地域の教育力を生かしたという回答が90%以上であった。	3	<ul style="list-style-type: none"> 年度初めに1年間の見直しを持って取り組むようにしたい。 高学年は、総合的な学習の時間が削減されるため、見直しが必要となる。
		全学年で年2回授業を計画通り実施した。		児童アンケート及び教師の見取りで、地域の教育力を生かしたという回答が80%以上であった。		
		全学年で年1回授業を計画通り実施した。		児童アンケート及び教師の見取りで、地域の教育力を生かしたという回答が60%以上であった。		
		授業を実施できなかった。		児童アンケート及び教師の見取りで、地域の教育力を生かしたという回答が60%未満であった。		
<ul style="list-style-type: none"> 外遊びアンケートを行い、85%以上の児童が外遊びを行うなど、外遊びの意識が向上した。 体育委員会によるリレー大会、なわとび集会では、多数の児童が参加し、外遊びのきっかけとなった。 前期に引き続き、体育委員会による用具の貸し出しを行い、効果的に活用されている。 	<ul style="list-style-type: none"> アンケートの結果、高学年で外遊びが行われにくい傾向があるので、今後も外遊びを行いやすい環境を整えていく。 	外遊びの働きかけが十分できた。	4	外遊びをした児童が、90%以上であった。	3	<ul style="list-style-type: none"> 外遊びがこれからも活発に行えるように、施設面の充実と外遊びをしたくなる行事の計画を進めていく。 高学年が外遊びをもっと行うことができるよう、環境の整備と当番活動の見直しを進めていく。
		外遊びの働きかけができた。		外遊びをした児童が、80%以上であった。		
		外遊びの働きかけがあまりできなかった。		外遊びをした児童が、60%以上であった。		
		外遊びの働きかけができなかった。		外遊びをした児童が、60%未満であった。		
<ul style="list-style-type: none"> 体育科の授業を通して、柔軟性や筋力を向上させるための運動に取り組んだ。 各学年なわとびカードを使用し、持久力向上をめざして取り組んだ。 体力優秀者の表彰を行い、児童の意識を向上させた。 	<ul style="list-style-type: none"> 懇談会等を通じて、保護者へ児童の体力の実態をもっと伝えることによって、体力アップへの家庭での協力をお願いしていく。 今後も、筋力・柔軟性に重点においた準備運動等の指導法の工夫・改善を行っていく。 	目当ての達成に向けて、十分取り組ませることができた。	3	児童の体力の向上が十分に見られた。	3	<ul style="list-style-type: none"> 新体力テストを全学年8種目行う。 カードの活用を活発にし、児童の体力の実態把握に努める。 保護者へ体力向上について啓発する場を増やしていく。
		目当ての達成に向けて、取り組ませることができた。		児童の体力の向上が見られた。		
		目当ての達成に向けて、あまり取り組ませることができなかった。		児童の体力の向上があまり見られなかった。		
		目当ての達成に向けて、取り組ませることができなかった。		児童の体力の向上が見られなかった。		